

2017年9月5日

## 小規模工場向け「LNGモバイルサテライト®」の推進

東京ガスケミカル株式会社（社長：石井敏康、以下「東京ガスケミカル」）は、これまでに多くのLNGサテライト基地の設計・建設から保守まで行っていますが、長年の経験とそこで培った技術を活かし、新たに、小規模のお客さま（小規模工場など）や導管の延伸を待てないお客さまに向けた一体型の「LNGモバイルサテライト®」（特許 5854479）を開発しました。

LNGモバイルサテライトは、40フィートコンテナサイズ（長さ12m、幅2・4m）にLNG貯槽（LNG容量30kℓ）、気化器・送ガスユニットを一体化した「TYPE-A」と、LNG貯槽ユニット（LNG容量40kℓ）と気化器・送ガスユニットを別途一体化した「TYPE-B」の2種類があります。

東京ガスグループでは、これまで天然ガス導管網未整備地域の工業用のお客さま（年間約1000t以上のLNGを使用）に対し、LNGサテライト基地を設置し、ローリー車でLNGを供給し、2017年3月末時点で124件のお客さまにLNGサテライト基地を設置しています。東京ガスケミカルでは、これよりも使用量が少ない小規模工業用のお客さまに向け、イニシャルコストが低いLNG貯槽を東京ガスと共同で開発しました。LNGモバイルサテライトはコンテナサイズで、トレーラーでの運搬が可能です。また、工場出荷時に主要な配管工事は完了していることや、タンクを横置きにすることで耐震強度にも優れるために深さ0・4mの基礎工事で済むことができます。現場工事を容易にすることで、工事完了からガス供給開始までの日数は、従来のLNGサテライト基地の20～30日に対し、10日間に短縮できました。このように投資額を抑えるだけでなく、導入期間を短くできることも大きなメリットになるため、今後ますます幅広いお客さまにご活用いただけるものと積極的に推進してまいります。